

2026年度

【KinoDen】オリジナル！サブスクパック

古典新訳文庫から**361**タイトル(予定)をサブスクで提供



「いま、息をしている言葉で、もういちど古典を」

- ・学生の読書習慣をブラッシュアップ！
- ・スマホでKinoDenアプリを使って読むのが最適！
- ・音声読み上げ機能にも対応！
- ・図書館のアクセシビリティも向上！

- ・複数年度での継続のご利用をおすすめします。
- ・初年度利用価格:440,000円(税込484,000円)／1年度
- ・次年度以降:新規に電子で提供されるタイトルがサブスクパックに追加されます。
(古典新訳文庫の全件ではございません)
- ・次年度以降利用価格:110,000円(税込121,000円)／1年度
- ・いったん継続が切れて次年度再契約の場合は、再び440,000円(本体価)／1年度をいただきます。
- ・詳しくは弊社営業担当までお問い合わせください。

リストはこちらからご覧いただけます。

https://kinoden.kinokuniya.co.jp/product/img/KD1052_list.xlsx

- ・利用期間:初年度2026年4月～2027年3月
- ・年度途中開始は別途ご相談ください。
- ・対象機関:大学・学校(海外不可)
- ・同時アクセス数:3



日本
広
そん
はかなり貴重で画期的なのです!
聖典でなく、孔子の人間味
あふれる一冊です!

搭載タイトルのご紹介

論語
鶴ヶ谷真一
訳・注

ルソーが目指したのは、子どもを「小さな大人」なく、子どもとしてとらえ、自立した真に人間に育てあげる、ということでした。や社会が達えども、読み継がれてきた理由がここにあると思います。エミールがどんな少年、青年になるのか、気になりませんか?

エミール
ルソー
斎藤悦則訳

横溝正史が『獄門島』や『八つ墓村』の着想を得たかもしれない本作。ルパンシリーズの異色作ですが、次々と繰り出される謎に圧倒される一方で、後半それらがしるしゆると回収されていくまさに「めまい」がします!

三十棺桶島
モーリス・ルブラン
中条省平訳

「カラマーゾフの兄弟」や「戦争と平和」の時代に、空想力を発揮した作家たちがいたんですね!

笑える奇人伝から真の「おソシア」話まで、ロシア文学の底の深さを堪能できる短篇集です。

**19世紀
ロシア奇譚集**
高橋知之編・訳

トマス・ハーディ
木村政則訳

「ユート」の「生き方ベタ」は身につまされる!でも真面目=心地悪ではなく、悪い女に躊躇されたり、理想の女性を追いかけたり、大学に入りたくて学寮長に手紙を書いたり、それなりにジタバタして充実してると思うんです。

日陰者ユード

アレクサンドル・デュマ
前山悠訳

全6巻の長さにおじけづかずに、とにかく読み始めてほしい!展開が派手で、謎もたっぷり、小説の面白さを伝える作品として、これ以上のものはないのではないかでしょうか。激動の時代を舞台にした、壮大な物語が開幕です!

椿説弓張月
曲亭馬琴著 葛飾北斎画
菱岡庵司訳

主人公の源為朝は頼朝・義経の叔父で、琉球王になったという伝説の持ち主。その為朝の超人的な武勇を軸に、琉球王国再建の歴史を壮大に描いたのが本書です。馬琴の筆の冴えがリアルに感じられる会心の現代訳、面白さは保証します!

ネコのムル君の人生観
モーハッサン傑作選
モーハッサン/太田浩一訳

「ヤンヒ、ネコが自伝を書くだけでも驚きなのに、下敷きにして別の伝記が混じってしまう。しかも、その自伝は教養小説のパロディになっていて……。ネコヒトの視点が交差する、唯一無二の二重小説(二重奏)をぜひお楽しみください。木下 鈴木芳

**フロイト
無意識について語る**
フロイト/中山元訳

フロイトシリーズの第3弾は「無意識について」どこにあるのか?どんな働きをするのか?意識とのちがいは? 文学、思想の面でも大きな影響を与えた20世紀最大の発見の一つ、「無意識」についてフロイトの考え方の深化をたどります。

**ブレシアの飛行機
/バケツの騎士**
カフカ/丘沢静也訳

「カフカは一日にして成らず(?)」を実感できる初期の習作、小品を集めました。カフカ=(イコール)「不条理」「絶望」という度の強いメガネを外し、メッセージ探しをやめれば見えてくる別世界。もっとカフカが好きになる一冊です。

オルラ/オリーヴ園
モーハッサン傑作選
モーハッサン/太田浩一訳

1枚の写真を手にした「ほらしい身なりの男か」ある日、神父グレイボウを訪ねてくよ。直視し難い過去を攬えこ……。緊迫感に満ちた受難の物語「オリーヴ園」(五か、因 翻弄させた物語)

シッダールタ
ヘッセ/酒寄進一訳

苦行の旅も、遊女との生活も、肉親や友人の存在も、彼の「渴き」を満たすことはできず……。自分探しは形を変えて、人生のあいだずっと続くものなのかもしれません。読むたびに心が震えます!

フランケンシュタイン
シェリー/小林章夫訳

誰もが知っているあの名も山の怪物の話(フランケンシュタインは怪物を作った人の名前です)。この恐ろしい話を書き上げた当時、シェリーは30歳もいる31歳の夫妻だったというから驚きです。

野性の呼び声
ロンドン
深町真理子訳

良家の飼い犬だったハックは、突如立ちわめて、苛酷な環境で、様子大として働くかされる。暴力的な人間たちや他の犬たちのながれ、逞しく、そして誇り高く生き抜いていくハックの姿が感動的。子どもから大人まで読める名作・名訳です。

読書について
ショーペンハウゼン/鈴木芳子訳

「読書とは他人のアタマで考えるうこと」「たくさんの読み物は「読む」と「かになら」」。あえて辛辣な物言いをするショーペンハウゼンの真意は、どう読みかねばならない?この本を読めばわかります。

ノーサンガー・アビー
オースティン/唐戸信嘉訳

10代にオースティンを読めるならまだこれ!女友達との推し作家講義、恋愛と妨害、そして彼の実家に隠された秘密(?)まで、一気読みで楽しめる、軽快な小説です。次にはぜひ『高慢と偏見』(上・下)をどうぞ。

ボヴァリー夫人
フローベール/太田浩一訳

夢見がちなお嬢様育ちの妻エマ。彼女は不倫の沼から抜け出せず、膨大な借金を重ねてしまう。「いかにもありがとうございます」不倫話を大傑作に仕立てた、これまで小説と呼べるフローベールの代表作です。